

大海の一滴

—— 本県の健全育成宣言に思う

本県では、平成十五年七月に長崎市で幼児誘拐殺害事件、また平成十六年六月に佐世保市で同級生による女兒殺害事件が発生。平成十七年六月、平戸市内の男子中学生が、小学生の妹に重傷を負わせるという痛ましい事件が発生した。これを受け県議会から児童生徒の健全育成に関する非常事態宣言」が出された。何の前触れもなく生命が絶

寄稿

へ成熟することができない。人間の知恵や文化の継承には、重い意味がある。今こそ、親業の修行を人間全員で行い、親力をつけるべきである。生きるために不可欠な、食べる行為のマナーの躰(しつけ)。これぞ人間訓練、熟成への第一歩といえる。美しく、正しく食べることは、人間としてのプライドであり、これをファッション化、ゲーム化する(ことは論外である。「食べる」ことは本能である。

問われるべきは「親力」

久田 順子



ひめた・じゅんこ 1966年佐世保市生まれ。東京家政大卒。県教育委員会委員歴任。現在、県都市計画審議会委員、久田学園佐世保女子高校長、学校法人久田学園理事長。佐世保市稲荷町在住。

たれてしまう現実の社会。よくここまで生き延びられたといえるほど、危険がいっぱいである。人間が健全に人生を全うするためには、いかにすべきなのである(つ)。断言する。大人が悪いのだ。現代社会の大人は未成熟なのだ。なぜか。その大人を育てた親が、魂や志を持たず、子育ての責任指導をできていなかったからだ。その大人が今、親になり子育てをしているが、壊滅的、惨憺(さんたん)たる状態である。生命誕生の時から、人間になるための修行をしなければ、ヒトから人間

しかし、巧みに食べることは、芸術である」との名言あり。食べ方、箸(はし)の持ち方を教えるのは親の責任である。美しく、正しい箸の持ち方食べ方ができるか、県議会議員の皆さまに自己採点をお願いしたい。

男は平等である。共同責任がある。母親から生まれた子どもは、許される甘えの世界で、しっかりと躰られ成長してこそ、成熟した大人になるのである。子どもは「お母さん、母さん」と母親を確かめ、自分を確かめて安心する。母親不在の不安は、人格形成

効率至上主義に疑念 人間観 育てる教育を

に多大な影響を与える。九十歳の男が母の懐に抱かれないと願い、八十六歳の女が母に会いたいという心情や情愛。これこそが本来の人間の姿ではないか。

グレート・マザー、立派な母は立派な女性である。優しさ(やさ)と勇気(ゆうき)が、育てる力になる。気高く、気高く。

経済至上主義のもと、日本人は悪魔に魂を売り渡してしまったようだ。強い効率競争社会に安心はない。優しい心などはたわ言(たわご)の持ち方などはかけたこと、などとする今日の風潮は、自然や人間を畏(おそ)おそれない心を芽生(も)えさせた。自然との関係や人の気持ちについて想像することができない心は、畏れる(おそ)という感覚を喪失(も)させた。当然(た)然(ぜん)そこからは、謙虚(けんこ)さなど生まれるべくもなく、自意識(じいし)だけが尖(と)がり、日々空虚(くうこ)さが増(ぞ)していくばかりである。心を持たない者は、人間失格(にんげんしっかく)である。

学校教育においても、読み書き計算の基礎基本で脳力を鍛え、何のために生きるのか徹底的に教える必要がある。「仕事観の前に、人間観を学び身につけること」

特別なこと(と)でできれば良いという価値観は、自動車のハンドルにアソビは無用とする考えと同じである。アソビの部分があるから、安全運転ができる。人生運転(うんてん)もその理である。

せめて美しく生きたと言える人生でありたい。